独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター整形外科

前列左から：山田勝久（医師），新納伸彦（医長），髙橋士郎（医長），伊東学（脊椎脊髄病センター長）

当院は，国立病院機構南札幌病院と西札幌病院が2010年に統合され，旧西札幌病院の敷地内に新しい病院として建設されました．北海道神宮，円山公園，大倉山シャンツェなど，札幌の観光名所に近く，病院の裏には三角山や都会では珍しいヤマメが泳ぐ清流として知られる琴似発寒川（ことにはっさむがわ）が流れ，都会でありながら豊かな自然に囲まれています．

病床数は500床（一般病床410床，結核病床50床，精神病床40床）で整形外科は約40床を使用しています．医師総数は約100名（非常勤を含む）で，27診療科を有する総合病院です．北海道地区の地域災害拠点病院，結核医療や神経・筋疾患，小児の育成医療，免疫異常などの拠点病院，臨床研修指定病院に指定されています．救急救命センターを併設し，ヘリポートも開設されました．

Information

- 医師数　5名（2014年7月時点，非常勤1名を含む）
- グループ　脊椎脊髄，一般整形，上肢
- 手術件数　220例（平成26年1月から7月末）
- URL　http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc/

病院外観

伊東 学 Manabu Ito
独立行政法人国立病院機構
北海道医療センター脊椎脊髄病センター長
〒063-0005　北海道札幌市西区山の手5条7丁目1-1

図1　病院正面玄関

図2　2013年11月に新設されたヘリポート

図3　腰椎手術の様子

図4　海外見学者と一緒の手術風景
英語でのディスカッションで英会話スキルも向上します.

図5　タイからの見学者との記念写真

当院整形外科について

整形外科は4名の常勤スタッフが勤務し，北海道大学整形外科の上肢班から1名が肩・肘・手の外科の担当として非常勤で勤務しています.また，当院救急救命センターの医師1名は整形外科の手術に参加しています．血液透析センターや救急救命センターとの密な連携のもと，脊椎外傷や長期維持透析患者の運動器病変の治療も数多く行っています．組織の垣根を越えた柔軟な診療協力体制が本院の特徴の一つです.

2014年4月から，本稿の著者・北海道大学大学院医学研究科脊椎脊髄先端医学講座の伊東 学（特任教授）を脊椎脊髄センター長として，困難な脊椎脊髄疾患に対する先進医療を提供する診療科として新しい組織でスタートしました．骨粗鬆症性脊椎骨折，頚椎症性脊髄症，腰部脊柱管狭窄症といった高齢者に多い疾患はもとより，特発性側弯症，先天性側弯症などの小児の脊柱変形の専門的治療も開始しました．小児の遺伝子疾患を数多く診療する小児科，北海道内の難治性筋神経疾患の中枢である神経内科との連携のもと，重度の脊柱変形などの疾患の外科的治療も開始しました.

本年度になり，アジア諸国から研修を希望する医師が2名，短期研修に訪れました．また，積極的に若手医師向けの脊椎脊髄疾患のセミナーを主催し，本年6月には札幌でAOSpineの頚椎疾患のセミナーを，また7月には北大脊椎脊髄外科セミナーを当脊椎脊髄センター長の伊東が主催しました．両セミナーとも全国から100名程度の参加者があり，大変好評でした.

図6　合同カンファレンス
整形外科医，病棟看護師，理学療法士，作業療法士，ソーシャルワーカーとの合同カンファレンス．毎週水曜日の朝に開催されます．

図7
海外からの招待教授を交えた英語でのディスカッションを医師，コメディカルと一緒に開催しています．

臨床実績について

手術日は月曜日，火曜日，木曜日の週3日で，脊椎脊髄手術が平均週4例程度，骨折などの一般整形外科の手術を週5例程度行っています．札幌市の中心に近く，近隣に整形外科診療所も多いことから，重度の合併症を有する症例が集まってきており，術後ICUなどでの集中管理が必要な症例が近隣の医療機関から紹介されています．最近では，脊椎脊髄病センターならびに脊柱側弯症専門外来の開設により，小児の先天性側弯症や症候性側弯症などの困難な脊柱変形の症例も急増しています．また，血液透析センターが院内に併設されていることから，長期維持透析患者の透析脊椎症による脊椎の破壊性病変の治療も増加傾向にあります．全脊柱のどの部位でも，後方手術のみでなく前方手術も数多く行っているのが特徴です．

骨粗鬆症を伴う脊椎変性疾患では，Cortical bone trajectory（CBT）を応用した脊柱再建術や，椎体形成術，脊椎感染症に対しては脊椎内視鏡を用いた掻爬洗浄術，特発性側弯症には二つのロッドを同時回旋して変形矯正を行うsimultaneous double rod rotation法による手術を開始しました．本年秋からはExtreme lateral lumbar interbody fusion（XLIF）による脊柱再建術も開始する予定です．

また，高齢者の大腿骨頚部骨折や骨粗鬆症に伴う脊椎骨折の症例も多く，近隣の医療機関と連携し，早期治療と早期リハビリにより寝たきり老人を作らない医療を推進しています．

カンファレンスと研修体制

術後カンファレンスを火曜日の朝8時15分から，術前カンファレンスを木曜日の朝8時15分から行っています．理学療法士，作業療法士，病棟看護師，ソーシャルワーカーで行う合同の症例カンファレンスを水曜日の朝8時30分から行っています．患者にかかわるさまざまな職種の医療関係者との連携を強め，入院，手術，リハビリ，転・退院がスムーズに行われるように工夫しています．

また，所属する診療科にこだわらず，運動器医療に興味がある他科の医師との合同のカンファレンスを企画しています．救急救命センターとは特

図8
北海道大学整形外科と年一回開催している北大脊椎脊髄外科セミナーの懇親会．国内外で脊椎脊髄外科をリードする医師が講師として多数参加します．

に密な関係を維持しており，毎週の術前後の合同カンファレンスや共同での手術も励行しています．幅広い研修を通して，ゼネラルに強い専門医の育成に努めています．

当科の臨床研修では，個々の希望やニーズに答えることができる研修体制の構築が最も重要と考えており，個々の若手医師にあった研修ができるような指導体制を構築しています．また，北海道大学整形外科との連携により，医療機関で医師として働きながら基礎的研究に従事することも可能です．

海外からの見学者や著名な教授が来院することも多いため，英語でディスカッションすることが多いのも当科の特徴です．医療英語のスキルをアップさせるClub for International Medical Professionalsを設立し，医師，コメディカルで国際的な医療活動をしてみたい，英語で医療を提供してみたいという若手医療従事者の希望に答えています．英語での症例検討会，日本人が苦手とする英語表現などを楽しく勉強できるように配慮しています．

また，市民への教育啓発活動にも力を入れ，本年5月には骨粗鬆症に関する市民公開講座を開催しました．11月には脊柱変形の市民公開講座を開催します．われわれと活動をともにすることで，運動器疾患の予防から最新の医療までを十分身につけることができる研修体制を構築しています．

自然豊かな環境に囲まれ，夏はトレッキング，ゴルフ，釣り，冬にはスキーやスケートを満喫することができます．北海道は食べ物もおいしく，北の歓楽街として有名なすすきのも近く，アフターファイブも堪能できます．医療のプロフェッショナルになるための勉強だけではなく，北海道の大自然も一緒に楽しみたいという“ワークライフバランス”を大切にする若手の医師には最適の研修機関と自負しています．